

令和2年度 中学生チャレンジテスト（第3学年国語）解説資料

□4

[問題の概要]

対義語について、その意味を理解し文脈の中で適切に使う力をみる問題である。

[出題の趣旨]

言葉について学習する際には、意味を理解している語句の数を増やすだけでなく、話や文章の中で使いこなせる語句を増やすことを意識させたい。そのことから、本問題では具体的な文章を用いて、その意味を考えさせる場面を設定した。

[授業改善へのメッセージ]

対義語には、例えば、「理性」と「感情」のように語句の全体で反対の意味となるもの、「送信」と「受信」のように一字が反対の意味となるもの、「満足」と「不満」のように打ち消しの意味を表す漢字が前に付くものなどがある。このような対義語の種類に着目させて指導することも大切である。

対義語以外にも類義語や慣用句・四字熟語・外来語などの新しく出合った「気になる言葉」や「使いたいと思った言葉」を積極的に話や文章の中で用いるなど、意味や用法の違いを考えながら学習を深めていくことが有効である。

語句の意味を理解し文脈の中で適切に使うようにするための授業アイデアとして、「語彙手帳」の例が挙げられる。各教科等の学習や生活の様々な場面で出合った「気になる言葉」や「使いたいと思った言葉」などを継続的に書き留めるとともに、「どのような言葉を書いたのか」「実際にどのように使ったのか」などについて交流することを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることが大切である。

【参考資料】 国立教育政策研究所教育課程研究センター 平成30年9月

「平成30年度 全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例 中学校」

「自分だけの『語彙手帳』を基に、言葉を使いこなそう」～語感を磨き語彙を豊かにする～

<https://www.nier.go.jp/jugyourei/h30/idea-03.html>

□5

[問題の概要]

相手や目的に応じて効果的に話す力をみる問題である

[出題の趣旨]

説明やスピーチをする際には、自分の伝えたいことが聞き手に対して十分に伝わるように、内容や表現の工夫、場の状況を考えることが大切である。このことから本問題では、小学校2年生の児童に対し、生き物の紹介をするためにリハーサルをしている学習場面を設定した。

[授業改善へのメッセージ]

紹介や説明、スピーチをする際には、場の状況や聞き手の様子に応じて話すように指導する必要がある。例えば、実際に話をする様子を機器など用いて録画・録音し、伝えたい内容が正確に伝わっているか、聞き手に分かりやすい言葉になっているかなどについて振り返り、話し手と聞き手の両方の立場から検討するなどの学習活動が有効である。その際、交流を通して考えたより分かりやすい内容や表現の仕方を、次の学習活動に生かすように指導する時間を授業の中で設定することが重要である。

【参考資料】 文部科学省 平成 23 年 5 月

「言語活動の充実に関する指導事例集～思考力、判断力、表現力等の育成に向けて～【中学校版】」

国語 事例 1 「『体験入部』の報告をしよう」

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/gengo/1306150.htm

四 4 (2)

[問題の概要]

根拠を明らかにして意見を書く力をみる問題である。

[出題の趣旨]

読書は、人生をより豊かなものにするだけでなく、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かにするなど、国語科で育成を目指す資質・能力をより高める重要な活動の一つである。このことから本問題では、生徒が自分の読書生活を振り返り、本を読むだけでなく、読み方について考えるような言語活動を設定した。

[授業改善へのメッセージ]

読書をすることで、自分がそれまで知らなかった知識を得たり、考えを広げたり深めたりすることができる。指導に当たっては、読んだ本の中から自分が新しく知ったことや考えたことなどをノート等に書き留めさせたいうえで、内容を友だちと話し合う学習場面を設定することが大切である。

生徒に自分の意見を明確に持たせるためには、単に印象を羅列するだけにとどまらず、これまで身に付けた知識や自分の体験などと関連付けて具体的に書かせることが大切である。今回の言語活動例では「読書記録ノート」を扱ったが、例えば詩歌などを鑑賞する文章、新聞記事に対して意見を述べる文章、友だちが創作した物語を批評する文章など、様々な形態の文章を書く中で、繰り返し指導することが有効である。